

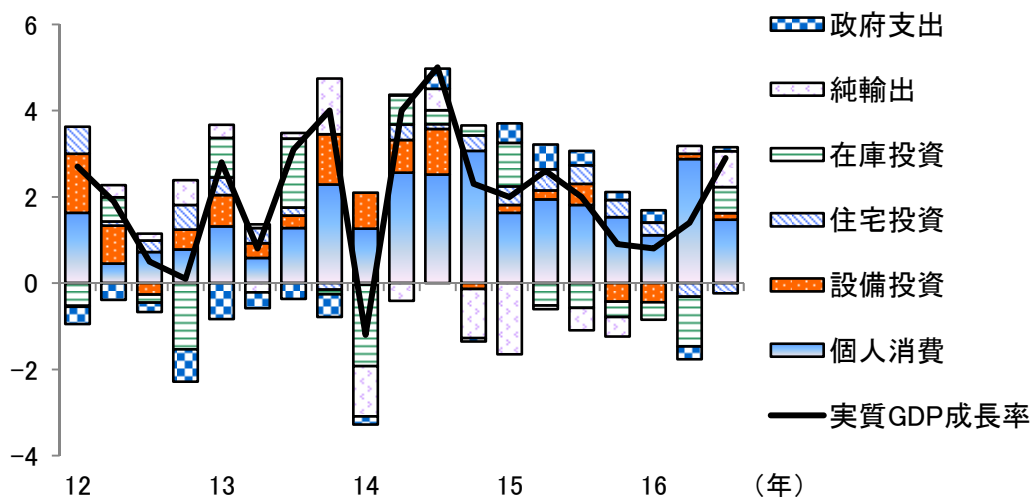
アメリカ経済グラフポケット (2016年11月号)

2016年11月7日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 橋本 政彦

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



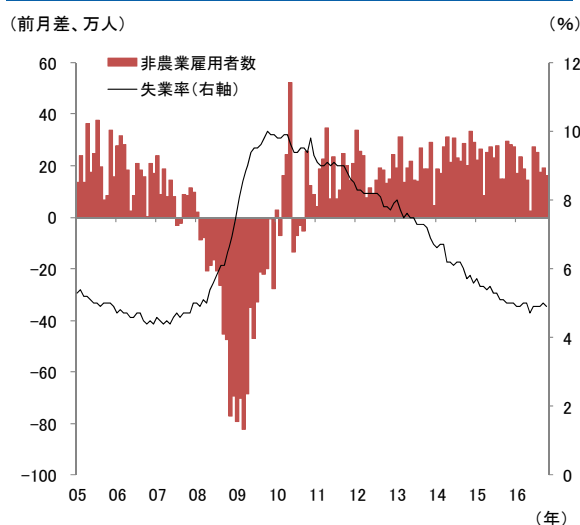
(前期比年率、%、%pt)	2014	2015				2016		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
国内総生産	2.3	2.0	2.6	2.0	0.9	0.8	1.4	2.9
個人消費	4.6	2.4	2.9	2.7	2.3	1.6	4.3	2.1
設備投資	-1.1	1.3	1.6	3.9	-3.3	-3.4	1.0	1.2
住宅投資	11.4	13.3	14.9	12.6	11.5	7.8	-7.7	-6.2
政府支出	-0.4	2.6	3.2	1.9	1.0	1.6	-1.7	0.5
輸出	4.5	-5.8	2.9	-2.8	-2.7	-0.7	1.8	10.0
輸入	11.2	5.6	2.9	1.1	0.7	-0.6	0.2	2.3
寄与度								
個人消費	3.1	1.6	1.9	1.8	1.5	1.1	2.9	1.5
設備投資	-0.1	0.2	0.2	0.5	-0.4	-0.4	0.1	0.2
住宅投資	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	0.3	-0.3	-0.2
在庫投資	0.2	1.0	-0.5	-0.6	-0.4	-0.4	-1.2	0.6
政府支出	-0.1	0.5	0.6	0.3	0.2	0.3	-0.3	0.1
輸出	0.6	-0.8	0.4	-0.4	-0.3	-0.1	0.2	1.2
輸入	-1.7	-0.9	-0.4	-0.2	-0.1	0.1	0.0	-0.3

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

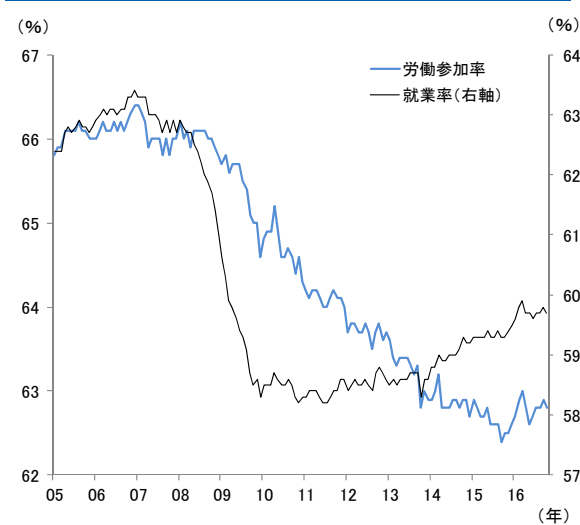
- ◆ 2016年10月の失業率は4.9%と前月から0.1%ポイント低下した。労働参加率の低下が失業率を押し下げた。
- ◆ 10月の非農業雇用者数の前月差は16.1万人増と伸びが前月から鈍化したが、堅調さが維持された。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は17.9万人増であった。

非農業雇用者数と失業率



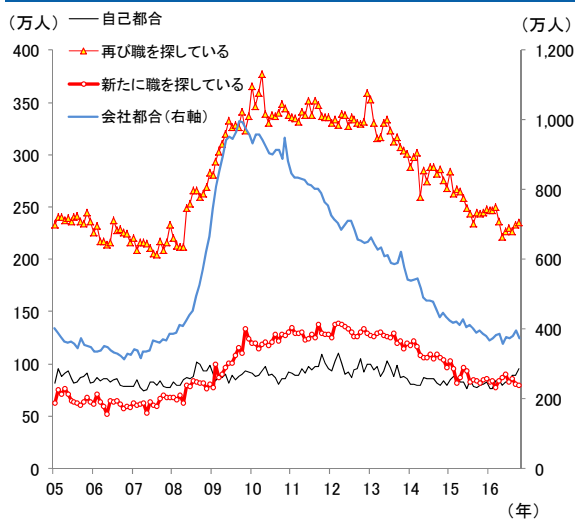
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



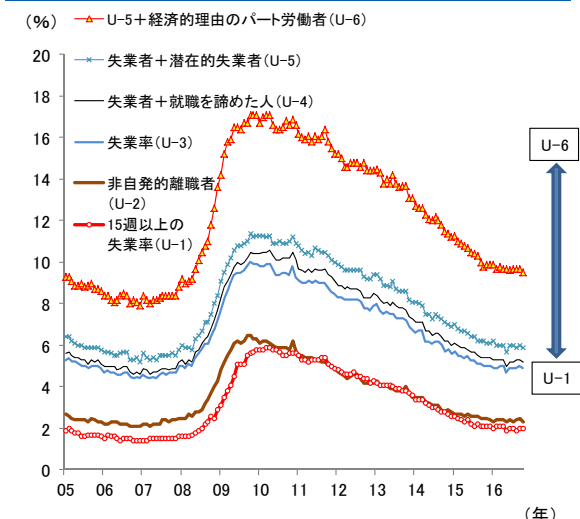
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



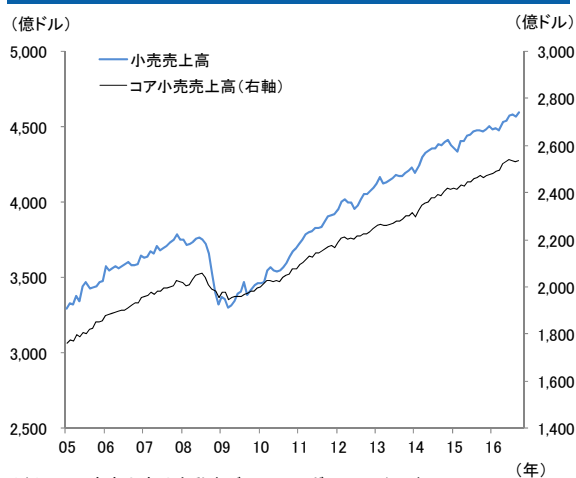
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

¹ 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「時給は2009年以來の高い伸び」(2016年11月7日)参照。http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20161107_011379.html

個人消費

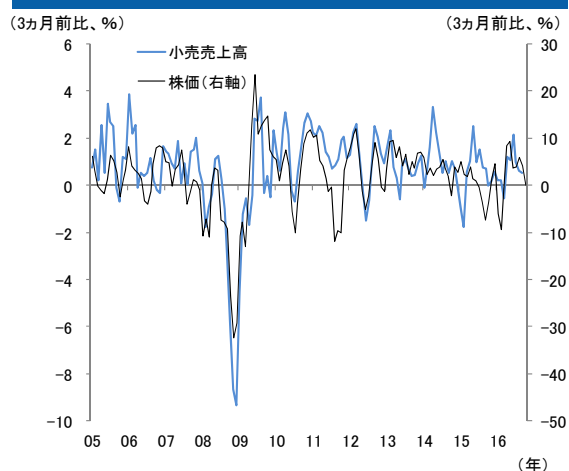
- ◆ 2016年9月の小売売上高は前月比0.6%増と、2ヵ月ぶりに増加した。コア小売売上高も0.1%増加した。
- ◆ 10月の自動車販売台数は前月比1.5%増加し、年率換算で1,802万台であった。年率換算の販売台数が1,800万台超となったのは2015年11月以来で、好調な数字を示した。
- ◆ 10月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の91.2から87.2へと大幅に低下した。期待指数の低下が全体を押し下げ、2015年9月以来の低水準となった。

小売売上高の推移



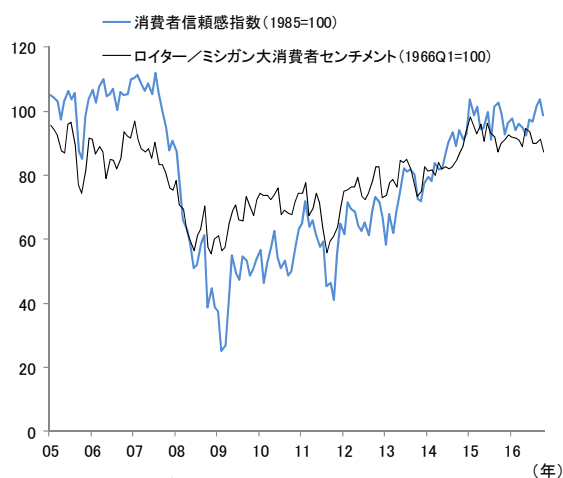
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



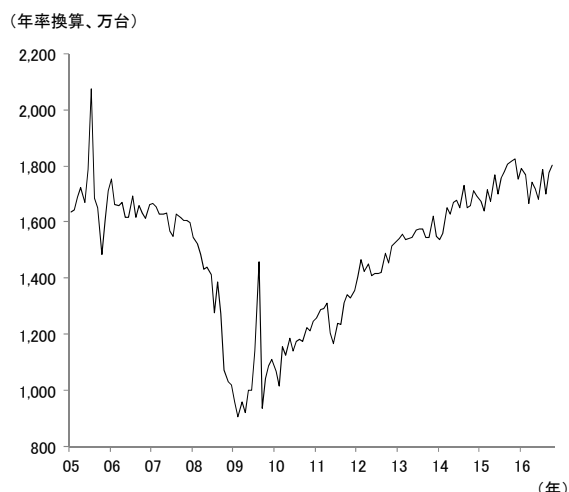
(注) 株価はWilshire5000。
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数

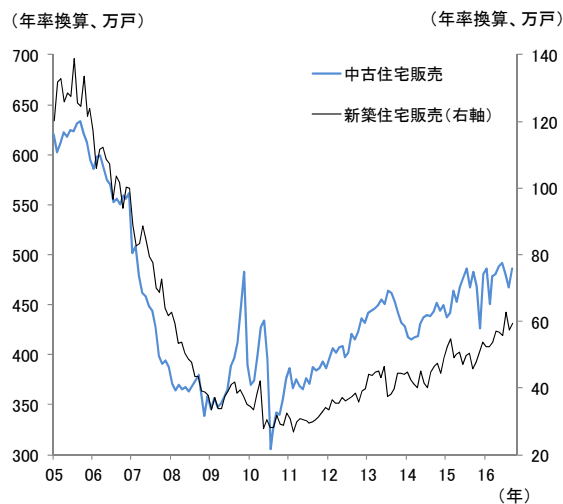


(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

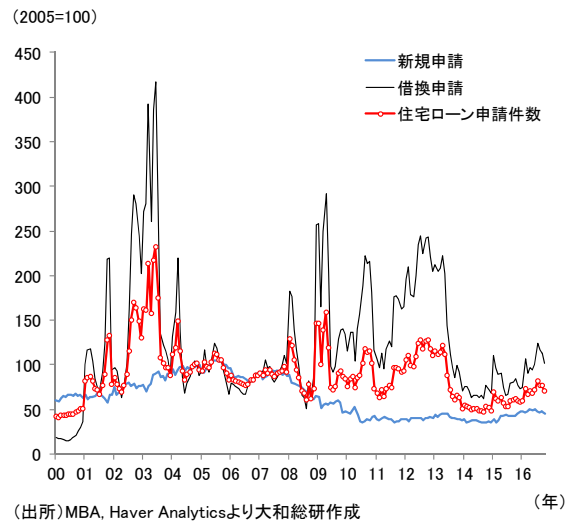
住宅市場

- ◆ 2016年9月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比9.0%減の年率換算104.7万戸であった。一戸建ては増加したものの、変動が大きい集合住宅の大幅減が全体を押し下げ、2015年3月以来の低水準となった。
- ◆ 9月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比4.1%増の年率換算486.0万戸であった。3ヵ月ぶりに増加し、販売が加速した。
- ◆ 9月の新築住宅販売（一戸建て）は、前月比3.1%増の年率換算59.3万戸となった。金融危機以降では、7月に次ぐ高水準である。
- ◆ 8月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月から0.2%上昇した。住宅の在庫不足などから住宅価格が押し上げられ、2ヵ月連続の上昇となった。

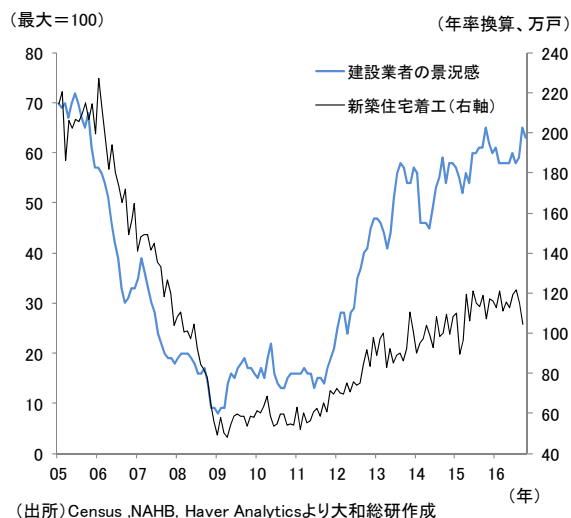
住宅販売（一戸建て）



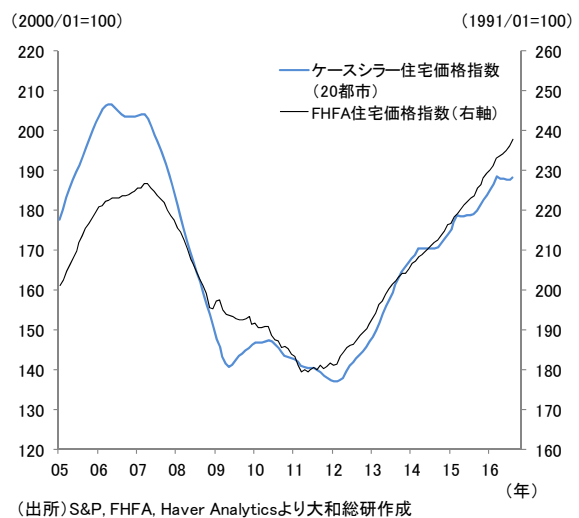
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



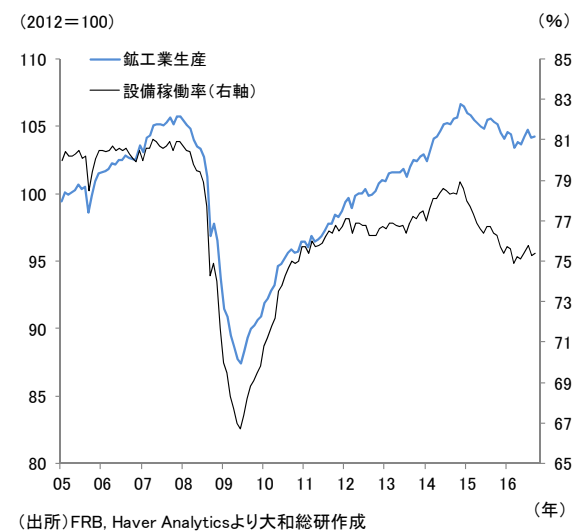
住宅価格



企業動向

- ◆ 2016年9月の鉱工業生産指数は前月比0.1%と僅かに上昇し、2ヵ月ぶりの上昇に転じた。指数全体の約8割を占める製造業（SICベース）は、同0.2%上昇した。
- ◆ 9月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は前月比1.3%減と、4ヵ月ぶりに減少した。
- ◆ 10月のISM製造業指数は前月から0.4%ポイント上昇し、51.9%であった。生産や雇用が改善し、2ヵ月連続で基準となる50%を上回り、緩やかな成長を示した。非製造業指数は同2.3%ポイント低下し、54.8%となった。

鉱工業生産と設備稼働率



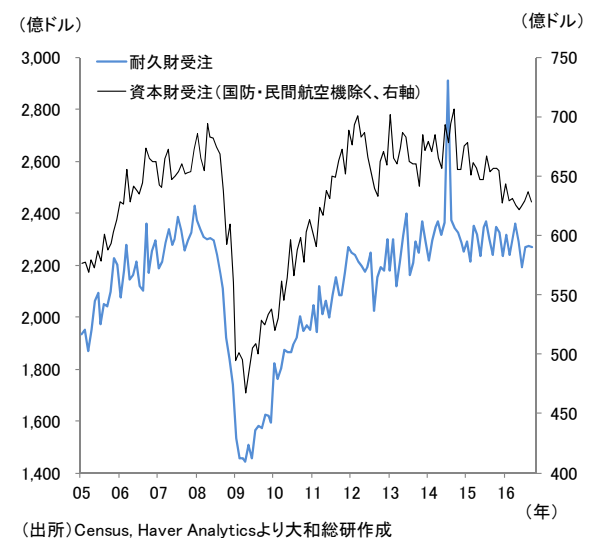
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



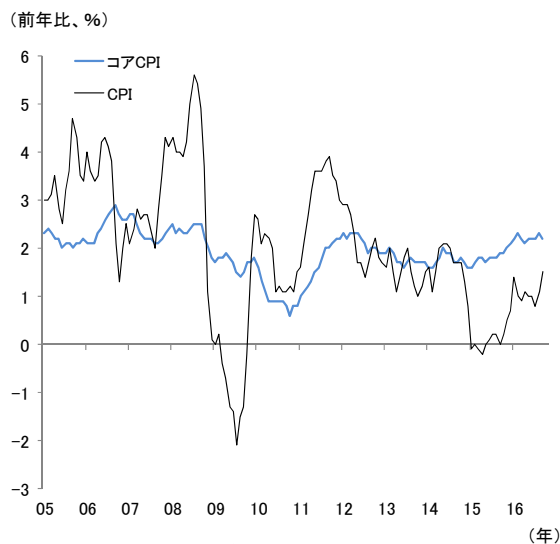
耐久財受注



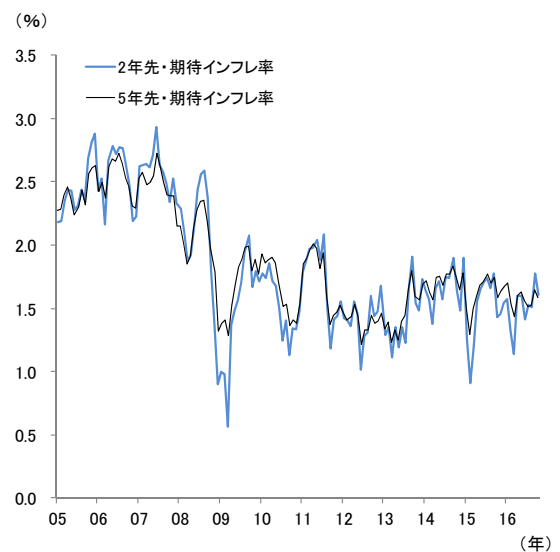
物価動向

- ◆ 2016年9月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.5%上昇した。インフレ率はFRBの長期目標である2%を下回る推移が続いているものの2014年10月以来の高い伸びとなった。コアCPIは、同2.2%上昇した。
- ◆ 10月の2年先期待インフレ率は1.61%と前月から低下し、5年先期待インフレ率も1.58%と前月から低下した。
- ◆ 10月末のWTI原油先物価格は46.86ドル/バレルで、9月末の48.24ドル/バレルから下落した。一時50ドル/バレルを超えたものの、前月のOPECによる減産合意に対する疑念などから、月末にかけて価格が下落した。

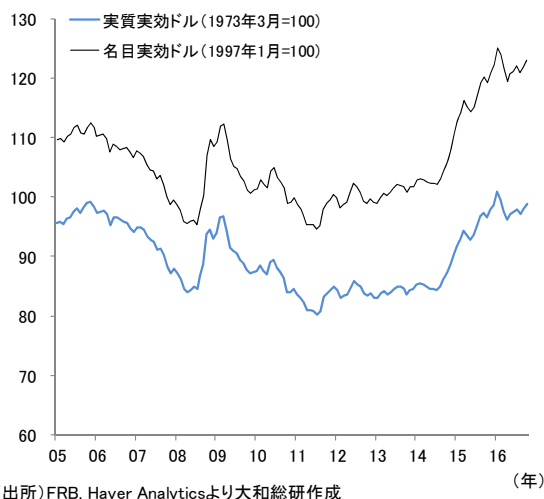
消費者物価指数



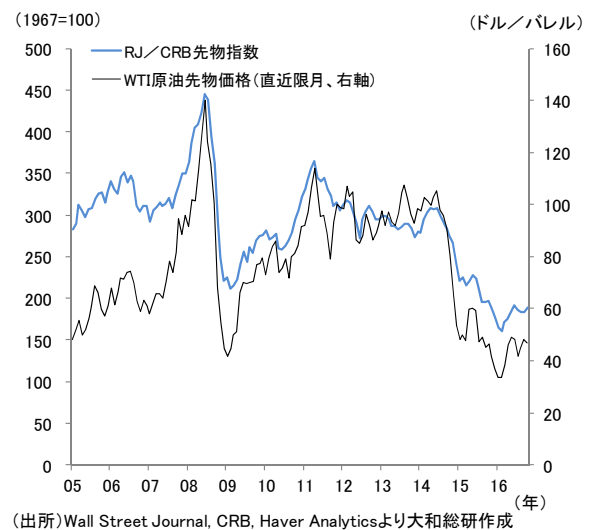
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



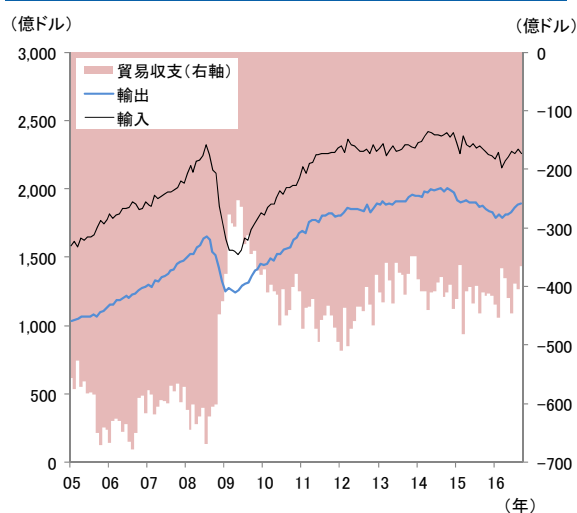
コモディティ価格



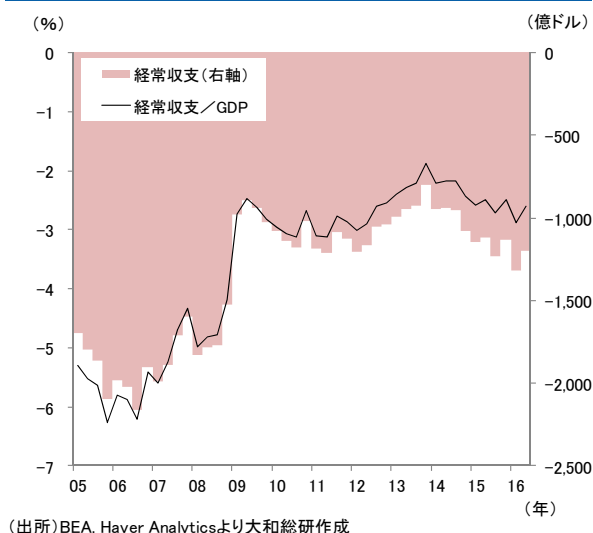
輸出入・経常収支

- ◆ 2016年9月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比0.6%増加し、輸入が同1.3%減少した。この結果、貿易赤字は同9.9%減の約364億ドルに縮小した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では民間航空機といった資本財が増加し、輸入では資本財や医薬品などの消費財が減少した。
- ◆ 地域別（財）では、日本への輸出が前年比19.6%増と著しく増加し、中国向けが同1.4%増加、欧州向けも同1.2%増加した。輸入は、日本からの輸入が同5.2%増加した一方で、欧州からの輸入は同1.7%減少し、中国からの輸入も同8.1%減少した。中国からの輸入は7ヵ月連続で前年を下回った。

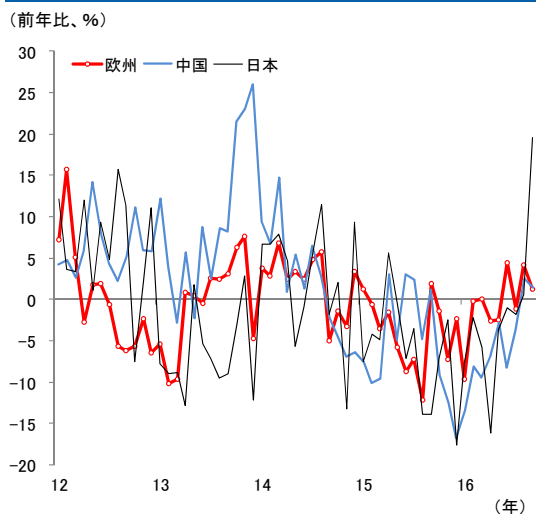
貿易収支動向



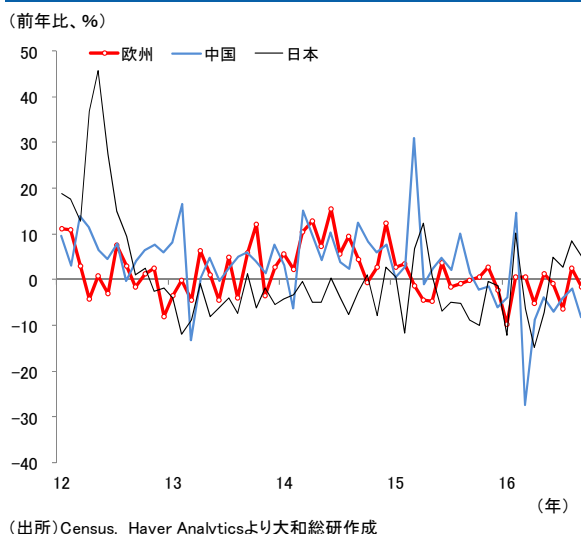
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



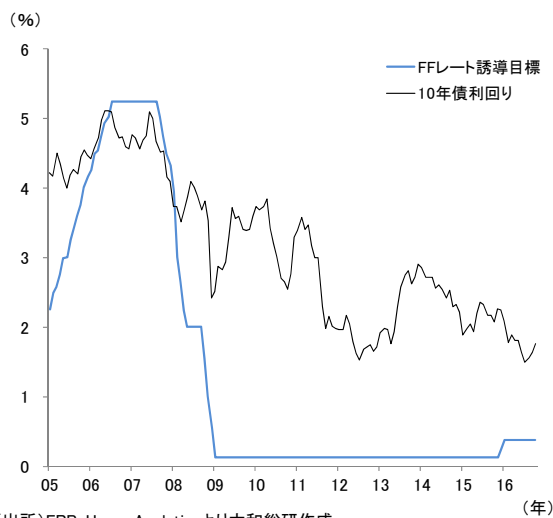
国・地域別輸入動向



金融・財政

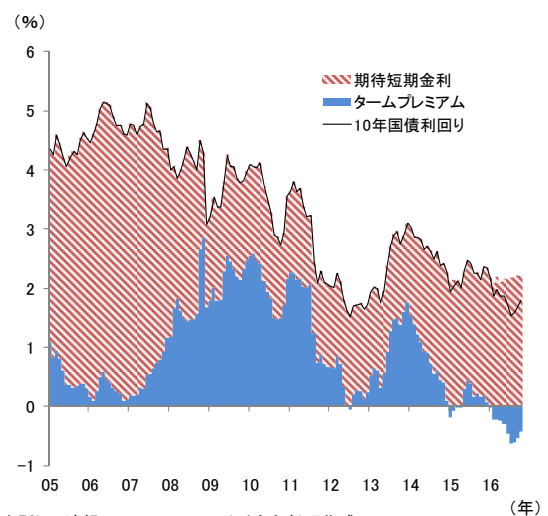
- ◆ 2016年11月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジが据え置かれた。また、保有する資産規模については、現在の水準を維持することが決定された。FRBの資産残高は、直近の11月2日の週平均が約4兆5,000億ドルであった。
- ◆ 10月の長期金利（10年債利回り）の平均値は1.76%となった。インフレ率の高まりや、年内の利上げ観測などから、月中平均値として5月以来最高となった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、このところ赤字幅が拡大している。

政策金利・長期金利



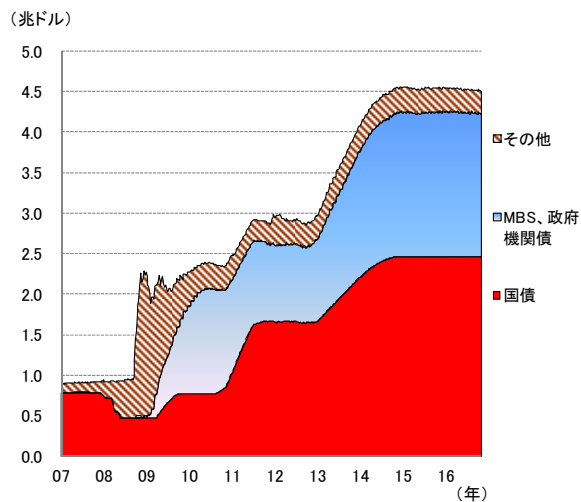
(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

タームプレミアム(10年)



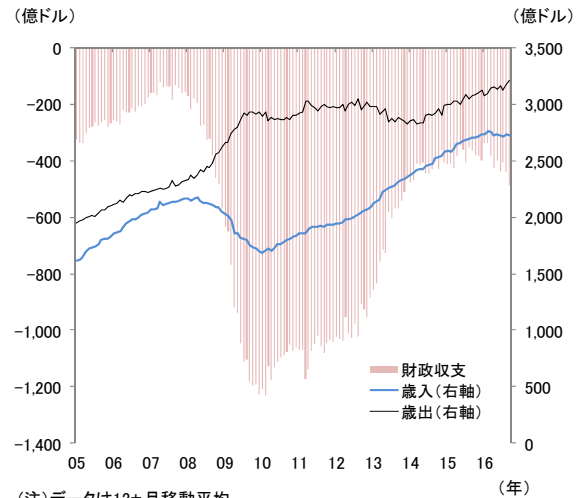
(出所)NY連銀, Haver Analyticsより大和総研作成

FRBの資産構成



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

連邦政府の財政収支



(注)データは12ヵ月移動平均。
(出所)米財務省, Haver Analyticsより大和総研作成